

## 生活単元学習指導案

昭和 57 年 1 月 20 日 水曜日 3 校時  
高等部 1 年 男子 5 名 女子 5 名 計 10 名  
指導者 重山岩久 平屋浩司 山下加代子

### 1. 単 元 「学習発表会」

#### 2. 単元について

- (1) 一般に、意志が弱く目的をもって行動したり、他の人と協力し合うことに欠陥のある精神薄弱児の指導においては、お互いに集団の中で活動する喜びを味わわせ、協力し合って一つの目的に向かって行動させることは、生徒の相互関係を活発にし、すすんで自分の分担を果たそうとする態度を育成する上で意義が深いと考える。

ところで、本学級の生徒たちは、高等部ができて最初の生徒でもあり、自分たちは最上級生であることを自覚し、高等部の生徒としての誇りをもって、諸行事にも高等部の生徒としてまとまりのある活動をしようとする姿勢が見うけられるようになった。

ある程度自分の立場がわかる高等部段階の生徒たちにとっては、自分たちのことは、自らの手でやっていこうとする自覚をもたせて、自治的にとりくませる活動は、将来の社会生活においても自らたてた希望や課題に見通しをたてて、主体的にとりくもうとする態度を培っていきけるのではないかと考える。

3 学期は、生徒に一年間をふりかえらせ、学年にけじめをつける時期である。この時期に、「学習発表会」を題材として、高等部のこの一年の歩みの中から生徒全員に共通する直接経験をとりあげて、生徒が特に興味や関心を示す行事を中心に総合的な学習を展開することは年間の学習のまとめとしても適切である。

それにはまず、学習発表会は生徒たちにとって楽しいものでなければならない。結果だけを期待する活動ではなく、過去の実験を再現する過程で、その子なりの小さな動きやつぶやきにも共感し合い感動し合うことによって学習活動への動機づけを図っていききたい。

また、自由な表現活動を中心として自主的表現能力や態度を伸ばすようにしながら、他の人と協調していくためには、単に自己の欲求充足だけでなく、自己規制も必要であることをわからせていくことが大切である。

計画や練習、準備、発表などの活動の過程において、役割を分担したり、共同製作をしたりすることを通して、一人ひとりの分担がなくてはならないものであり相互の協力が必要であることに気づかせて、全員で力をこめて創造していく喜びを味わわせることも大切である。

こうして、創りあげていく過程を大事にすることにより、集団における自分の立場をわからせ、互いに刺激し合ってすすんで行動させる中に、「生徒が、自ら考え、計画して行動する」態度が育てられるのではないかと考える。

(2) 本学級は、高等部1年で、男子5名、女子5名、計10名のクラスである。知能指数は、19～69（田中ビネー、昭56.5現在）、精神年齢は、3.2才～10.4才、運動能力は、50m走14.2秒～8.4秒、平均台渡りは、渡れない者から後ろ向きで渡れる者までさまざまである。

生活面では、肌着の前後、裏表がわからない者から更衣その他に支障のない者まで大きな開きがある。しかし学級全体としては、お互いに「助け合う」「励まし合う」「注意し合う」というような協力して生活しようという態度が、いろいろな場面で見られるようになり、クラスとしてはある程度まとまりつつある。

話し合い活動は、毎日朝の会と帰りの会を自主的に行なっている。今日の目標や1日の反省をするのであるが、積極的に自分の意見を発表するのは1～2名程度であり、他の生徒は、指名されるとなんとか答えるというだけのかかわりである。また、職場実習の反省会等でも「玉ネギの皮をむいた」「おむつをたたんだ」「袋を切った」などの断片的な事実だけを発表する状態である。

グループ活動は、校外学習などいろいろな学習の機会を利用して行なっている。そしてみんなが平等にリーダーの役目を経験している。活動の中では、リーダーとしての意識を忘れてしまっている場合が多いが、整列する時は前に立って整列させている。このような状態ではあるが、グループとしてまとまって活動しようという意識がわずかずつつはあるが芽生えてきつつある。

表現活動に関しては、様々な行事や学習を通して楽しくうたったり、劇化したりすることを経験している。それらの中で劇に関しては、これまで教育実習生とのお別れ会で水戸黄門の出てくる「一寸法師」とクリスマス会での「マッチ売りの少女」を経験している。「一寸法師」では、配役決定やセリフ、演技など教師の指導助言が大きかった。「マッチ売りの少女」では、1～2名の生徒が中心となって題名の決定や役割分担、練習や準備など自分達で活動しようという姿勢が見られた。しかし、大部分の生徒は、いろいろな活動において、恥ずかしがったり、自分がどのようにかわればよいかわからなかったりして、協力してすすんで活動しようとする態度は、まだみられない。

過去の経験については、1～2学期の行事を月を追って答えられる者はほとんどなく、みんなが比較的良好に覚えていたのは、夏の宿泊学習（キャンプ）と運動会や職場実習であった。いずれも時期や内容などについては、ヒントを与えるとなんとか答えるものの不明確なものが多く、また、いくつかの行事を混同して覚えている者もあった。

以下、生徒1人1人のおおよその実態を示すと次表のようになる。

(4) 実 際

過程	学 習 の 流 れ	指 導 上 の 留 意 点	教 師 の は た ら き かけ
導 入	<p>1. 学習発表会について話し合う。</p> <p>・高等部の主な行事 交歓会 一日遠足他</p> <p>2. 学習のめあてを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">思い出をグループで発表しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一年間の歩みを、行事ごよみなどをもとに思い出させ、学習発表会への意欲をもたせる。</li> <li>○精神のリラクゼーションを図るためにリズムカルな身体表現を全員でさせる。</li> <li>○VTRやカセットレコーダー、行事板などを利用して、視覚や聴覚を刺激して思い出させる。</li> <li>○グループ表現を協力してできるように、後半にグループ発表の場をもつことを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな行事があったかふりかえってみよう。</li> <li>○「みてごらん」といって、行事カードをかけてある行事板の方を指さす。</li> <li>○滋賀大学附属養護学校との交歓会のようすをVTRで放映する。ディスクの場面でディスクの曲を流す。</li> <li>○主な行事をカードによって確認していく。</li> <li>○前時に話し合っていた行事カードをグループでとってくるように指示する。</li> <li>○行事の数を数えたり、行事名を読んだりさせる。</li> </ul>
展 開	<p>3. 出し物について話し合う。</p> <p>(1) 発表する行事を選ぶ。</p> <p>A…宿泊学習(キャンプ) B…運動会 C…職場実習</p> <p>(2) グループで話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border-bottom: 1px solid black;"> <span>宿泊学習</span> <span>運動会</span> <span>職場実習</span> </div> <div style="text-align: center; padding: 5px;">                 楽しかったこと                  苦しかったこと                  印象に残っていること             </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border-top: 1px solid black;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     水熱炊テント張り他                      泳砂飯                      氷砂飯                      炊飯                      テント                      張り他                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     リレーダンス                      999                      応援                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">                     皮むき                      布たたみ                      袋きり                      印刷                      他                 </div> </div> </div> <p>(予想される活動)</p> <p>4. グループ発表をする。</p> <p>(1) 演技発表</p> <p>(2) 感想発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に選んでいた行事の中から、グループ員の興味・関心などをもとに発表したい行事を話し合っ</li> <li>て選ばせる。</li> <li>○指導者もグループの一員として話し合いに参加する。</li> <li>○表現内容は、一つの行事から特徴的な場面をいくつか選ばせる。</li> <li>○VTRやスライド、8mm映写機、使った用具などをいつでもすぐ利用できるように設置しておく。</li> <li>○話し合いは班長を中心に進めさせる。</li> <li>○言語による話し合いだけでなく、身ぶり手ぶりも入れた身体表現を使って話し合わせ、重度の生徒にも応じた話し合いへの参加をさせる。</li> <li>○初めての話し合いの場であるので表現方法については、具体場面の再現にとどめる。</li> <li>○各グループごとに発表させる。上手にできたところは全員で認め、賞賛しあわせる。</li> <li>○グループの人数が少ないときは、他のグループからも自由に友情出演をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな行事を話し合いたいのか、グループで相談しなさいと指示する。</li> <li>○したい行事が重なり、自分の意見に固執する生徒に、こんな場合どうすればよいかと全員になげかける。全員の意見を聞いた後、がまんすることの必要なことを知らせ、多数意見に従わせる。</li> <li>○各グループに補助(一員となる)としてつく。</li> <li>○VTR、スライド、8mm映写機、写真、使った用具などを用いて表現することをすすめる。</li> <li>○視聴覚機器等は生徒たちのできる範囲内で自分たちで操作できるように話し、教師はその補助として操作の困難なとき手伝っている。</li> <li>○各グループ内の成員の意見をできるだけ出させるようにリーダーに指示。また重度の生徒・思い出せない生徒には、一番印象に残っていることなどについて個別に指導してまわる。</li> <li>○グループで力を合わせて発表することを確かめる。</li> <li>○発表順の決め方を話し合わせる。(じゃんけん)</li> <li>○一つ一つのグループの発表が終わるごとに賞賛の拍手を送る。(生徒たちもいっしょに拍手)</li> </ul>
終 末	<p>5. 次時の学習について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">もう一つの思い出をグループで発表しよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事ごよみの中から予定されている残りの行事カードを選ばせ、生徒ひとりひとりの能力に応じて、次時への意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表のしかたや内容などについてもっと工夫してほしいところ、よくできたところを話す。残りの三つの行事のうち、した行事を話し合っておくよう指示。</li> </ul>

児 童 ・ 生 徒 の 活 動					
見 る	聞 く	話 す	行 動	表 情	そ の 他
<ul style="list-style-type: none"> <li>行事板の方を一斉にみる。</li> <li>どの行事カードかわからない友達にはグループで指さしたりして教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の話をよく聞いている。</li> <li>友達・先生の話は全員よく聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時では学習発表会について学習するとM・Kが言う。続いて全員が口々に言う。</li> <li>人の発表をくり返す発言が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指さしたカードの行事名を口々に読む。</li> <li>ディスクを楽しく生き生きと踊る。始め抵抗を示したM・Kもリズムにのってきた。</li> <li>O・Hが3つと行事数を数えたので全員で拍手。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由なのびのびとした表情。曲を口ずさんでいる生徒もいる。</li> <li>O・Hにこにこして喜しそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声にならなくても、曲に合わせて口を動かし、歌っているようなそぶりがみえる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>スライドや8mmフィルムが映しだされると、なつかしそうにじっと見ている。</li> <li>互いのグループの発表をしっかりと見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>性格的におとなしい生徒たちはリーダーや元気のいい生徒に従っており、じっと話を聞き、すぐ同意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーを中心にして話し合っている。友達の意見を聞くグループ、自分の意見を主張する生徒などさまざまである。</li> <li>各グループのリーダーを中心にしてどんなことをしたいか、何があったかを思い出そうと話し合う。</li> <li>映っている場面をM・Y, H・Y, O・Mなど得意になって説明している。</li> <li>各グループ「〇〇グループは〇〇〇〇のところで発表します」これで終わります」を代表者がいう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表したい行事カードの下にグループ名をかく。「運動会」に2グループが書くグループ (はやぶさ ゆき あられちゃん)</li> <li>スライド、8mm映写機等を操作する。</li> <li>宿泊学習では荷物運びと熱砂の場面を練習する。リーダーが荷物を指示。</li> <li>運動会は扇・笛をもって応援の練習。ボールをもって999の練習。</li> <li>職場実習では、それぞれの職場の働く様子を再現。</li> <li>M・Yは運動会の発表のとき、進んで出ていき、選手宣誓のようすを再現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>M・Yは不満そうだが、全員の意見に従う。</li> <li>いろいろな用具を使い始めると全員の表情が生き生きと動き始める。</li> <li>フィルムをみて、なつかしそうである。</li> <li>玉ねぎの皮むきなど、涙の出そうな顔をしている。</li> <li>T・T, O・Hは恥ずかしそう。ほとんどは楽しそうに発表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>M・Yがどうしても運動会をしたいと言いはる。</li> <li>生徒ひとりひとりのしたい行事を発表し、M・Yに納得させようとしている。</li> <li>実習を着用している。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物学習、野外学習いもほりなど次の行事を話している。</li> </ul>			

(3) 以上のようなことから、この単元では、次のようなことに留意して指導にあたりたい。

① 生徒の自主的、自発的態度を尊重する。

ア. 生徒自らの希望や話し合いによる役割分担をする。

イ. 生徒のつぶやきや細かい動作を見逃さず認めてやり賞賛のことばをかける。

ウ. 全員参加をたてまえとして、1人1役を割り当てる。

② 助け合おうとする意識態度を育てる手だてを工夫する。

ア. グループ活動を多くする。

イ. セリフを考えたり、小道具を作ったりすることを、みんなでとりくませる。

ウ. 役柄をお互いに工夫し合わせる。

エ. 練習のきまりを自分達で決めさせる。

③ 生徒の身体的、精神的リラクゼーションに努める。

ア. 自由な表現を大切にす。

イ. 教師も仲間の1人だという意識を持って行動する。

ウ. 教室の設営や場の設定を工夫する。

エ. 音楽や身体的表現活動をとり入れる。

### 3. 目 標

(1) 学習発表会の計画、練習や準備、発表の過程を通して、友達と一緒に活動するよろこびを味わわせると共に、見通しを持って活動する態度をつちかう。

(2) 自分に与えられた役割や仕事をやりとげることにより、自分の立場がわかり、責任をもって行動しようとする態度を育てる。

(3) 恥ずかしがらずに表現活動をすることにより、自信をもってすすんで行動しようとする態度を育てる。

4. 指導計画（総時数35時間）

過程	おもな学学活動	時間
一 次	1. 学習発表会について話し合う <ul style="list-style-type: none"> <li>• いままでの学習発表会について反省する。(1)</li> <li>• 今年の学習発表会の計画をしらべる。(1)</li> </ul> 2. 学部の出しものを決める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学部の出しものの計画を話し合う。(1)</li> <li>• 1年間の思い出についてしらべる。(3)</li> <li>• 発表内容を選定して整理する。(1)</li> </ul>	7  (本時 $\frac{5}{7}$ )
二 次	3. 発表会の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 練習の日程を話し合う。(1)</li> <li>• 役柄や係を決定する。(2)</li> </ul>	15
三 次	<ul style="list-style-type: none"> <li>• シナリオをつくり読み合わせをする。(4)</li> <li>• 各場面の練習をする。(5)</li> <li>• 全体練習をする。(3)</li> </ul>	
三 次	4. 発表会の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 必要な道具をそろえる。(2)</li> <li>• 舞台装置を考えて小道具をつくる。(2)</li> <li>• 案内状をかく。(1)</li> </ul> 5. 予行練習をする。(2)	7
四 次	6. 発表会に参加する。(4) 7. 発表会の反省をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 計画と実施, 参加の仕方などについて反省する。(1)</li> <li>• 作文を書き, 整理する。(1)</li> </ul>	6

## 5. 本 時

### (1) 目 標

高等部で体験したことを思い起こし、グループで協力して表現することができる。

### 個 人 目 標

氏 名	性 別	目 標
O・H	男	・友だちの話を聞いたり、補助によって模倣したりできる。
K・S	〃	・自分の考えをことばや動作で進んで表現できる。
S・K	〃	・友だちの話を聞きながら、体験したことを思い出せる。
M・K	〃	・話し合いのリーダーとして、意見をまとめたり教えたりできる。
M・Y	〃	・体験したことをだいたい表現できる。
U・K	女	・恥ずかしがらずに友だちといっしょに話したり動作化したりできる。
O・M	〃	・体験したことを喜んで表現できる。
T・T	〃	・話し合いに進んで参加し、恥ずかしがらずに表現できる。
H・Y	〃	・体験したことを思い出して、進んで表現できる。
M・Y	〃	・体験したことを思い出して、喜んで表現できる。

### (2) 本時の指導にあたって

グループの編成や発表会でとりあげる行事については前時までに話し合っておく。本時では、生徒たちの興味や関心に基づいて表現する行事をグループで決めさせる。一つ一つの活動の様子や特徴的な場面は、視聴覚機器を使ったり、全員で話し合ったりして思い出させていきたい。また、行事ごよみや拡大写真、使った用具などを教室内に設営して想起しやすい場をつくりたい。

話し合い活動では、言語による話し合いだけでなく、簡単な身ぶり、手ぶりによる身体表現を伴った話し合いをさせていきたい。そのために、各グループに指導者も一員として加わり、いっしょに話し合いをしたり、緊張感をほぐしたりしたい。能力の高い子には、できるだけリーダーとしての意識をもたせ、中心になって話し合いを進めさせる。またひとりひとりの表現を尊重して、互いに助け合ったり協力し合ったりしてグループ全員で一つの行事を表現させていきたい。このような話し合い活動を進めることによって、生徒ひとりひとりが協力して表現する楽しさや喜びを味わうことができると考える。

### (3) 準 備

行事ごよみ、行事カード、ハチマキ、応援扇、ホイッスル、ポンポン、拡大写真、わりばし、袋、箱、カセットレコーダー、VTR、スライド（映写機2台）、キャンプ用品（テント、バケツ、飯ごう、コッヘル、まき etc）他



氏名		O・H	K・S	S・K	M・K	M・Y
事項						
知能指数 (田中B)		19	55	35	64	28
精神年齢		3:2	8:0	5:4	10:4	4:7
表 現	作文	補助すれば簡単な文の模写はできるが作文にはいたらない。	簡単な文は書けるが興味のある事実を時間に関係なく列挙するだけである。	事実の列挙であるがいつも「楽しいでした」ということは加えている。	自分の感想や気持ちを簡単な文章に表現できる。	簡単な文の模写はできる。
	ことば	家庭では「楽しかった」「疲れた」と話しているが、学校ではみんなの前で話すことはない。	気がむくとよく発表するが、話し合う内容からはみ出て自分のカラに閉じこもった発言が多い。	話し合いの内容はよくわかっているが積極的な発言はない。また声が小さくなかなか聞かれない。	自分の立場を理解し建設的な意見を発表する場がちがうと消極的になる。	意欲的に話す支離滅裂であり、的はずれなことが多い。
	製作	全面的に補助しないとできない。	気分がムラがあり、注意散漫で仕事も粗雑である。	取りかかりがおりそいが根気強くやるようにはなった。	自分の分担がわかり努力するがやや雑である。	無器用であるが得意な仕事は根気強くやるようになった。
	うた	歌を歌うことはない。拍子はよくとる。	大きな声で元気よくうたうが気分がのらないとつぶやくような声になる。	歌詞もメロディーもよく覚えているが声が小さく聞こえない。	はっきりとよくうたう。	メロディーは覚えているが、歌詞は一部分しか覚えていない。
	感情	嬉しさや喜びの時の感情表現が率直である。	情緒が不安定でコントロールできない時もある。	喜びの表現はあるが小さい。怒りの表情はほとんど出さない。	喜びや悲しみ、怒りなどすぐ表情に現われてくる。	恐怖に対する感情表現は激しい。感動することがほとんどない。
1年間の思い出		断片的なことは覚えている。	楽しかった行事をいくつか思い出すことができる。	主な行事名をあげて補助してやると内容をだいたい思い出す。	主な行事を思い出し、その時期もわかる。	順序だててはできないが色々な行事を思い出すことができる。
作業の手順		べったりついていないと作業できない。	気分が向き、手順を覚えるとあとは時々確認するだけで1人で作業する。力仕事は嫌がる。	動作がのろく、マイペースで仕事をすすめ能率が低い。	与えられた仕事を終わると次の仕事を求め指示をおく事はできる。仕事は雑なときもある。	単純な力仕事はよくするが、作業の手順は全くわからない。
協調性		自分からみんなに加わることは少ないが、気に入った友達に誘われると参加できる。	みんなと一緒に行動しようという意識が芽生えてきた。	1人で過ごすことが多く、自分からすすんでかかわることが全くない。	自分の長所を認めみんなの為に生かそうという意識が芽生えてきた。	自分からすすんで集団の活動に加われない。
自主性		自分からすすんでやることは少なく、ほとんど補助を要する。	自己顕示欲が強い。自信のあることには積極的にとりくむ。	何事にも依頼心が高い。	すすんで自分の考えを述べたり指示したりできる。	新しい場面には抵抗を示すが自信のあることにはすすんでとりくむ。
責任感		全てに飽きっぽく途中で放り出す。	気が向けば最後までやろうとするが、自分勝手な行動も多い。	教師の指示があればやろうとするが、1人では最後までできない。	自分の役割は果たそうとするが、時々手を抜くことがある。	固執性が強く自分の係の仕事は自分でやらねば気がすまない。
劇に対する興味		恥ずかしがっているが、周囲の援助によって参加できる。	自分の役柄を意識して演じようとする。	興味を示さない。	ナレーターなどは好んでやりたがる。友達への指示もある程度できる。	参加する意識はあるが、動きは自分本位で、全体から逸脱している。
備考		脳性小児マヒ		ダウン症	甲状腺機能障害	随膜炎

氏名		U・K	O・M	T・T	H・Y	M・Y
事項	知能指数 (田中B)	44	26	50	46	50
事項	精神年齢	7:0	4:2	8:0	7:4	7:10
表	作文	事実の列挙であり、自分の考えを書くまでにいたらない。	簡単な文章の書写はできるが、作文はできない。	簡単な文章は書けるが、事実の列挙である。	事実の列挙であり、脱字も多い。簡単な感想を書くときもある。	わずかではあるが、自分の気持ちを文章に表現できる。
	ことば	進んで発言することがなく、自分の考えを発表できない。 近頃やや声が大きくなった。	意欲はあるが、的はずれのことを発表する。	大勢の中では発言するが、手をあげて発言することはない。	声は小さいが素直に発言するようになった。 感想をまじえるときもある。	手をあげて、よく発言するが、他人の意見をまねてのものが多く。
	製作	ハサミやノリを使った製作に興味を示すが、非常に消極的である。	気分にもうがあるが、興味を持つと最後までやる。	製作には好んでとりくむが、不器用である。	製作は好きであるが非常にきょう面で時間がかかりすぎる。	注意散漫であり、また非常に不器用でもある。
	うた	独唱はしないがみんなと一緒に口を大きくあけて、よくうたう。	気分がのると怒鳴るような声で楽しくうたう。	指名すると1人でもうたう。歌詞もよく覚え、はっきりうたう。	歌詞をよく覚えてうたうが、声が小さい。	歌詞をよく覚え口を大きくあけて、はっきり歌う。
	感情	表情がよくなり嬉しい時は、ニッコリ笑うようになった。	嬉しいこと、恐いことなど素直に現わす。	悲しさや寂しさは表情に出さないが、楽しい事は素直に表わす。	怒りの表情は見せないが、嬉しい時は、素直に笑顔を浮べる。	喜怒哀楽の表現が激しいが、幼稚である。
1年間の思い出	運動会、職場実習等大きな行事はよく覚えているが、内容はあまり覚えていない。	最近の行事は具体的内容も覚えているが、1学期の行事は、混同しているものもある。	キャンプ、運動会、実習での具体的内容を、体験をまじえて話す。	時間的には前後する時もあるが、経験したことを思い出すことができる。	楽しかった行事を、いつ頃のことが思い出して話せる。	
作業の手順	簡単な仕事は自分でできるが、行き詰ると教師の指示があるまで中断する。	単純な仕事は、手順を覚えるとすすんでやるが、複雑なことはできない。	いっしょうけんめい仕事はするが、手順をすぐ忘れやすい。	手順がよくわかり、根気強くコツコツ仕事をする。	おちつきがなく、周囲に気をとられ、作業が先にすすまない。	
協調性	周囲を気にしすぎて、全体場面では、他からの指示に従うだけである。	自己中心ですすんで協力しようという態度はない。	集団行動においてリーダー性を発揮し、他の面倒もよくみる。	友達の選り好みをせず、誰とも仲よくできる。	みんなと一緒にやろうとする意識はあるが、口出しが多く、友達の行動に干渉しがちである。	
自主性	自分の希望や要求をはっきり述べない。	自分で判断はできないが、ある程度自分の希望は述べられる。	ある程度まわりの状況は判断できるが、決断力がない。	家庭的な仕事は自分で考え、すすんでできる。	他の意見に左右されやすい。	
責任感	係や指示された仕事の内容、方法がわかって1人ではできない。	まかされた仕事でも誰かがついていないと途中で放り出してしまふ。	与えられた仕事は最後まではたそうとする気持はある。	まかされた仕事は、きちんとはたそうとする。	学級の係の仕事など忘れやすくやりとげることはない。	
劇に対する興味	与えられた役柄を演ずる時は恥ずかしがり、他に依存しやすい。	意裕的であるがどうしてよいかわからない。	演出係をすすんでやるが、人前で演ずるのは、恥ずかしがる。	楽しくとりくむが、動作が小さい。	他への口出しはするが、自分の役柄は忘れてしまふ。	
備考		甲状腺機能障害	肥満傾向	肥満傾向	かんし分娩 仮死産	

## (5) 考 察

高等部では「自分たちの考えで判断し、自分たちの力で創造する活動」を重視していくと、より生徒たちが自主的に行動するようになるだろうという考えのもとに学習が展開された。本時はグループの話し合い活動第一時である。言語による話し合いは高度なので、簡単な身ぶりによる身体表現活動を伴った話し合い活動を考えた。ここでは主として判断する場面での生徒の活動の様子を中心にして考察を加えることにする。

生徒たちが判断する場面は大きく考えると3つあった。① 発表したい行事を選ぶ場面、② グループで発表内容を考える場面、③ 発表内容を決める場面である。以下各項ごとに述べる。

### ① 発表したい行事を選ぶ場面

本時で学習する行事は、宿泊学習（キャンプ）、運動会、職場実習の三つである。このうち、宿泊学習については、はやぶさチームだけが希望したのですぐ決まった。しかし、ゆきグループ、あられちゃんチームは、ともに運動会を希望し、意見が重なってしまった。運動会そのものが動的な行事で、その活動内容の記憶が生徒たちに鮮明に残っているからであろう。特にM・Y男は運動会に固執している。M・Y男は職場実習の時、仕事がつらいと泣き出したり、職場の人に叱られたりした経験がある。また運動会では開会式に選手宣誓をし、十の経験をしている。このようなことで運動会を希望したものと思う。他の生徒たちは譲り合いグループのふんい気はまとまりつつあった。そこで「こんな時どうすればよいか」と全員に問いかけた。M・Y男は、友達から「わがままはいけないよ」と教えられる。そして、指導者からは必ずしも希望通りいかないときもあること、運動会の発表では手伝えよいかを説明されて、職場実習でも良いという返事が得られた。自分の希望を通すのはわがままであると友達に気づかせられたM・Y男は、それなりに心の中でかっとうしたことであろう。

社会に出ると、自分の希望通りに物事ははこぶとは限らない。そのとき、どのように考え判断し、行動していくかが、生きていく上で大事な要素であろう。M・Y男は、それを友達の力を借りながら、自分自身も努力して、自己規制の場を体験し、乗りきっていたのである。

### ② グループで発表内容を考える場面

本時は、生徒たちの印象に残っている場面を思い出させ、再現させようというのが課題である。そこで各グループでは、それぞれの行事のどんなことを覚えているかが話し合いの中心となってくる。過去の記憶を呼びもどす手だてとして、行事カード、使用した用具や道具、当時の様子を映した8mm映写機やスライドなどを教室内に設置しておいた。

生徒たちは口々に印象に残っている場面を「砂、あつかった」「なみだが出たよ」（玉ねぎの皮むきで）「テントが重かった」などとは言うものの、何をどう話し合えばよいか、わからない様子であった。しかし、映写機やスライド等を自分で操作させると喜んでしていた。自分で機械を操作する喜びと、その当時の様子をはっきり思い出され発表する内容の見通しが立てられた喜びとを生徒たちは感じとったようだ。それは、①の場面であれば職場実習の場をするのをいやがっていたM・Y男が、スライドに映っている自分の実習職場のようすをすすんで説明していたことからでも容易に推測できる。

こうして視聴覚機器等を使用することにより、発表する内容が焦点化され、一人ひとりどのように関わればよいかということの見通しがある程度ついたと言えよう。

### ③ 発表内容を決める場面

実際に誰がどのように表現するかを決め、練習する場面である。動作そのものは実際の活動どおりに表現すればよいので、グループ内での活動体制のあり方が問題となってくる。

各グループにはそれぞれリーダーになれそうな生徒を一人ずつは配してある。その生徒にはグループで中心となって活動させた。しかし、班長となっても、みんなの意見を聞いたり、調整したりすることは難しい。そこで、指導者がグループの一員として加わっているので、グループ員の意見を聞くように助言したり、話し合いの方向の軌道修正をしたり、思いつけないときには、それとなくその様子を示唆したりした。グループの話し合いであるが指導者がそのつど認めたり、励ましたり、助言したりすることによって、生徒は自分の活動の判断の基準とするようである。発達段階の低い生徒には、他の生徒に協力させ、実際と同じような行動を手をとってさせるように助言した。生徒一人ひとりの能力に応じた表現のしかた、判断のさせ方も大事なことである。

しかし、活動の中心は生徒である。リーダーを中心に、生徒たちが互いの考えを出し合い助け合う生徒どうしのいろいろな関わり方を数多く体験することが必要である。この時、生徒たちに時間的ゆとりを持たせることを忘れてはならない。急がず、せかさず、生徒たちの気持ちを充分満足させるような経験をくり返し積み重ねていくことにより、「～しよう」、「～したらよい」という意欲や判断がつくようになるものと考えられる。

この他、本時の学習の中で生徒たちの動きが特に活発で生き生きとしていたのはディスコダンスを踊る場面であった。ディスコダンスは情緒的にも身体的にもよい結果を生んだようである。

以上、3つの判断する場面について考察してきたが、生徒が「自分たちの考えで判断し」やすすくなるにはいくつかの条件が考えられる。整理してみると、友達どうしの認め合い、励まし合いの場を数多くもち、共に活動する喜びを与えること、具体物や視聴覚器機等を使ってイメージをより現実に近づけ、活動の見通しを立てやすくすること、時には自分の希望にそぐわないことでも自己規制しなければならぬことをわからせることなどが考えられる。また、集団の中で、役割分担したり、責任をもたせたりして、それぞれの発達の程度に応じて、自己の存在感をわからせることも大事な要素となろう。

集団活動を通して「自分たちの考えで判断し、創造する活動」を重視して研究してきたが、集団の中における個のあり方や個の伸ばし方については、これから考えていかねばならない。また集団の中で、言語能力の高い、あるいは発言の活発な生徒に依存しがちな生徒もいるので、一人ひとりの存在価値をどう理解させ、自分で判断して自主的に行動させていくかは、今後の研究にまたねばならない。